

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5700628号
(P5700628)

(45) 発行日 平成27年4月15日 (2015. 4. 15)

(24) 登録日 平成27年2月27日 (2015. 2. 27)

(51) Int. Cl.	F 1
E O 5 B 9/08 (2006.01)	E O 5 B 9/08 F
E O 5 B 65/06 (2006.01)	E O 5 B 65/06 C
E O 5 B 63/22 (2006.01)	E O 5 B 63/22

請求項の数 4 (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願2010-214792 (P2010-214792)	(73) 特許権者	390037028 美和ロック株式会社 東京都港区芝3丁目1番12号
(22) 出願日	平成22年9月27日 (2010. 9. 27)	(74) 代理人	100080838 弁理士 三浦 光康
(65) 公開番号	特開2012-67542 (P2012-67542A)	(72) 発明者	木下 琢生 東京都港区芝3-1-12 美和ロック株式 会社内
(43) 公開日	平成24年4月5日 (2012. 4. 5)	(72) 発明者	加藤 拓磨 東京都港区芝3-1-12 美和ロック株式 会社内
審査請求日	平成25年9月27日 (2013. 9. 27)	審査官	家田 政明

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 面付け錠ユニット

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも扉（１）の内壁面（１ａ）に第１固定手段（１７）を介して面付け状態に直接固定されるケース状収納体（７Ａ）と、このケース状収納体に第２固定手段（２５）を介して固定的に収納される掘り込み型錠前（８Ａ）と、該掘り込み型錠前を、前記ケース状収納体（７Ａ）を介して全体的にカバーすると共に、該ケース状収納体に外嵌合するプッシュプル式ハンドル装着用のカバー台座（１０Ａ）を備える面付け錠ユニット。

【請求項 2】

請求項 1 に於いて、カバー台座（１０Ａ）は、一側壁（１０ａ）に縦方向の切欠部分（３２）を有し、錠前（８Ａ）のフロント（２１）は、前記一側壁と略面一状態になるように前記切欠部分に位置していることを特徴とする面付け錠ユニット。

【請求項 3】

面付け錠ユニット（２Ａ）は、扉（１）の内壁面（１ａ）に直接固定されると共に縦長の内部空間（１５）を有するケース状収納体（７Ａ）と、このケース状収納体（７Ａ）に内装される掘り込み型錠前（８Ａ）と、前記ケース状収納体 7 A に対して被せるように外嵌合するプッシュプル式ハンドル装着用のカバー台座（１０Ａ）を備え、該面付け錠ユニット（２Ａ）の真下に所定間隔離間して位置しかつ前記扉（１）の内壁面（１ａ）に固定される下方の面付け錠ユニット（２Ｂ）も該面付け錠ユニット（２Ａ）と同一の構成部材から成り、上方の面付け錠ユニット（２Ａ）のカバー台座（１０Ａ）と下方の面付け錠ユニット（２Ｂ）のカバー台座（１０Ｂ）には室内側の前記プッシュプル式ハンドル（４）が

10

20

縦方向に配設されることを特徴とする面付け錠ユニット。

【請求項 4】

請求項 3 に於いて、取付け体 (9 A) は扉を貫通する複数本の連結柱を有する連結手段 (3) によってケース状収納体 (7 A) 側に引寄せられ、ケース状収納体 (7 A) は扉 (1) の内壁面 (1 a) と取付け体 (9 A) の垂直板部分 (9 a) とによってサンドイッチ状態に挟持されることを特徴とする面付け錠ユニット。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【 0 0 0 1 】

本発明は、面付け錠ユニットに関し、特に縦長ハンドルを装着するのに適合する面付け錠ユニットに関する。

【背景技術】

【 0 0 0 2 】

特許文献 1 には、少なくともラッチボルト 1 1 と該ラッチボルトを出没させる作動機構とを有するラッチ錠 1 0 と、扉 a の開く方向に対して押し操作または引き操作ができるように保持された室内側ハンドル 2 0 および室外側ハンドル 3 0 と、このハンドルの押し又は引きの操作によりラッチ錠 1 0 のラッチボルト 1 1 を後退又は後退を許容させて開扉可能となるプッシュプル式の扉錠であって、前記ラッチ錠 1 0 は錠箱 1 内に収納して、少なくともラッチ錠のラッチボルト 1 1 を錠箱 1 から出没できるようにしてあり、前記錠箱 1 は扉の室内側の扉面に面付けするとともに、この錠箱 1 の表面側に取り付ける室内側

10

20

【 0 0 0 3 】

しかして、この特許文献 1 の図 4 を参照にすると、例えば面付け錠ユニットは、少なくとも、扉 a の内壁面に第 1 固定手段 7 1、7 1 を介して面付け状態に固定される縦長ベース板 7 0 と、この縦長のベース板 7 0 に第 2 固定手段 4、4 等を介して固定的に取り付けられる一側開口の縦長錠箱 1 と、この縦長錠箱 1 に内装される既存の錠前 (例えばラッチ錠) と、前記縦長錠箱 1 の外壁面に固定される上下の台座とから成り、前記上下の台座には、プッシュプル式の縦長ハンドル 2 0 が縦方向に配設される。

【 0 0 0 4 】

上記構成の面付け錠ユニットは、縦長錠箱 1 に既存の錠前を固定的に内装することができるもの、縦長ベース板 7 0 と、これに一体的に固定される一側開口の縦長錠箱 1 とは別個の部材であることから、面付け錠ユニットの各部材を扉 a の内壁面に簡単に取り付けることができない、上下の台座は縦長錠箱 1 の外面に複数本のねじ 2 8、2 9 を介してそれぞれ固定されるものであるから、前記ねじ 2 8、2 9 が弛む可能性があり、台座がガタツキ易い等の問題点があった。

【 0 0 0 5 】

なお、特許文献 1 の図 1 3 の上下の面付け錠ユニットは、それぞれ別個であるものの、これらのサムターンケース 9 4、9 5 の内部構成は、全く不明である (符号は特許文献 1 のもの) 。

【 0 0 0 6 】

また、特許文献 2 には、扉の内壁面に固定される面付け錠ユニットが、錠前 2 と、該錠前の内壁面を除く外壁面を包む略断面コ字形状のカバー体 1 9 と、該コ字形状カバー体の外壁面中央部に外方向に突出成形された取付け座 2 3 から成る室内側の面付け錠ユニットが開示されている (符号は特許文献 2 のもの) 。

【 0 0 0 7 】

この特許文献 2 に記載の実施例は、錠前を略断面コ字形状のカバー体で錠前を包むので、現場での取付け施工が楽である、結露対策としての意味合いがそれなりにある等発明の効果が認められるものの、前記面付け錠ユニットは、本願発明の実施形態の如く、カバー体 1 9 が、本願発明の如く錠前全体を収納することができるケース状収納体でない、ケー

30

40

50

ス状収納体及び台座（取付け座２３）の他にケース状収納体を扉の内壁面に挟持状態に固定する取付け体が存在しない、台座がケース状収納体の外面を全体的にカバーするものではない等から、扉の内壁面側に扉の木口相当の環境作りを十分に発揮させることができず、従来の掘り込み型に使用されているラッチ錠、本施錠付きラッチ錠、本施錠等の錠前を、面付け状態に簡単に取り付けることができない、結露対策を十分に発揮することができない、防犯性が十分ではない、台座そのものを交換することができない、修理の際に台座のみを取り外しことができない等の問題点があった。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００８】

【特許文献１】特開２０１０－１５９６１３号公報

【特許文献２】特開平９－２５６７０６号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００９】

本願発明の所期の目的は、従来の特許文献に記載の実施例の問題点に鑑み、扉の木口に嵌め込まれる、いわゆる「掘り込み型錠前（例えばラッチ錠、本施錠付きラッチ錠、本施錠等）」を、木口に嵌め込む場合と同様に、扉の内壁面側に扉の木口相当の環境作りを錠前の取付け現場で簡単に実行することができ、従来の掘り込み型に使用されているラッチ錠、本施錠付きラッチ錠、本施錠等の錠前を、面付け状態に簡単に取り付けることができる面付け錠ユニットを提供することである。それと共に、結露対策を十分に発揮することができる、防犯性も発揮することができる、使用者の希望や修理のことも考え、台座そのものを簡単に交換することができることを目的とする。

【００１０】

第２の目的は、面付け錠ユニットを構成するカバー台座を扉の内壁面に固定される木口相当のケース状収納体に「がたつく」ことがないように確實（しっかりと）に固定することである。

【００１１】

第３の目的は、ケース状収納体そのものが「がたつく」ことがないように扉の壁面に確實に固定することである。

【００１２】

第４の目的は、例えばプッシュプル式の縦長ハンドルを装着するのに適合する面付け錠ユニットを提供することである。その他、外観上の美観を考慮し、扉の内壁面の正面から見たとき、ラッチ錠を収納するケース状収納体がカバー台座から見えなくようにすることである。

【課題を解決するための手段】

【００１３】

本発明の面付け錠ユニットは、少なくとも扉（１）の内壁面（１ａ）に第１固定手段（１７）を介して面付け状態に直接固定されるケース状収納体（７Ａ）と、このケース状収納体に第２固定手段（２５）を介して固定的に収納される掘り込み型錠前（８Ａ）と、該掘り込み型錠前を、前記ケース状収納体（７Ａ）を介して全体的にカバーすると共に、該ケース状収納体に外嵌合するプッシュプル式ハンドル装着用のカバー台座（１０Ａ）を備えることを特徴とする。

【００１４】

また本発明の面付け錠ユニットは、面付け錠ユニット（２Ａ）は、扉（１）の内壁面（１ａ）に直接固定されると共に縦長の内部空間（１５）を有するケース状収納体（７Ａ）と、このケース状収納体（７Ａ）に内装される掘り込み型錠前（８Ａ）と、前記ケース状収納体７Ａに対して被せるように外嵌合するプッシュプル式ハンドル装着用のカバー台座（１０Ａ）を備え、該面付け錠ユニット（２Ａ）の真下に所定間隔離間して位置しかつ前記扉（１）の内壁面（１ａ）に固定される下方の面付け錠ユニット（２Ｂ）も該面付け錠

10

20

30

40

50

ユニット(2A)と同一の構成部材から成り、上方の面付け錠ユニット(2A)のカバー台座(10A)と下方の面付け錠ユニット(2B)のカバー台座(10B)には室内側の前記プッシュプル式ハンドル(4)が縦方向に配設されることを特徴とする。

【発明の効果】

【0015】

(a)独立項に記載の発明は、扉の木口に嵌め込まれる、いわゆる「掘り込み型錠前(例えばラッチ錠、本施錠付きラッチ錠、本施錠等)」を、木口に嵌め込む場合と同様に、扉の内壁面側に扉の木口相当の環境作りを錠前の取付け現場で簡単に実行することができ、従来の掘り込み型に使用されているラッチ錠、本施錠付きラッチ錠、本施錠等の錠前を、そのまま面付け状態に簡単に取付けることができる。また、面付け錠ユニットを構成するカバー台座を扉の内壁面に直接固定される木口相当のケース状収納体に「がたつく」ことがないように確實(しっかりと)に固定することができる。さらに、カバー台座(10A)はプッシュプル式の縦長ハンドルを装着するのに適合する。

10

(b)請求項2に記載の発明は、ラッチ錠を収納するケース状収納体及びラッチ錠のフロントが略カバー台座から突起しないので、突起部分が障害物とならない。

(c)請求項4に記載の発明は、ケース状収納体が容易にがたつかない。

【図面の簡単な説明】

【0016】

図1乃至図11は本発明の最良の実施形態を示す各説明図。図12及び図13は本発明の第2実施例を示す各説明図。

20

【図1】扉の内壁面側から見た概略説明図。

【図2】戸枠を断面で示した平面視からの概略説明図。

【図3】扉の自由端面(戸先)側から見た概略説明図。

【図4】図2の主要部を示す平面視からの概略説明図。

【図5】扉枠と錠受けの説明図。

【図6】主要部を示す斜視図(カバー台座で取付け体及びケース状収納体を全体的にカバーした状態)。

【図7】主要部を構成する部材の分解斜視図(上方の面付け錠ユニット)。

【図8】要部(ケース状収納体及び取付け体を扉の内壁面に固定した状態)の斜視図。

【図9】図8に於いて、ケース状収納体にラッチ錠を嵌め込みかつ固定した状態の概略断面説明図。

30

【図10】扉の内壁面と取付け体とでケース状収納体を挟持する説明図。

【図11】図10に於いて、カバー台座でケース状収納体及び取付け体をカバーし、取付け体にカバー台座を固定した状態の概略断面説明図。

【図12】本発明の第2実施例を示す図6と同様の斜視図。

【図13】図12の13-13線概略断面図。

【図14】要部(取付け体9Aの突片部分9b)の設計変更例を示す斜視図。

【発明を実施するための最良の形態】

【0017】

以下、図1乃至図11に示す本発明を実施するための最良の形態により説明する。

40

【0018】

(1)特定要件を含む環境説明

まず、本発明の特定要件を含む環境説明を簡単に説明する。図1は扉の内壁面側から見た概略説明図、図2は戸枠を断面で示した平面視からの概略説明図、図3は扉の自由端面(戸先)側から見た概略説明図である。これらの図に於いて、1は開閉体としての扉、1aは扉の内壁面、1bは扉の外壁面である。2A、2Bは室内側の上下の面付け錠ユニット、一方、6A、6Bは室外側の上下の面付け錠ユニットである。

3は室内側の上下の面付け錠ユニット2A、2Bと、これに対応する室外側の上下の面付け錠ユニット6A、6Bをそれぞれ連結する複数の連結手段で、これらの上下の連結手段3、3は、扉1を挟んで互いに対向する内外のケース状収納体(後述)をそれぞれ一体的

50

に連結する。

【 0 0 1 9 】

したがって、例えば室外側の上下の面付け錠ユニット 6 A、6 B を構成する不番の取付けベース或いはケース状収納体には、それぞれ複数本（例えばそれぞれ 2 本）の連結柱 3 a、3 a が設けられ、一方、後述する室内側の上下の面付け錠ユニット 2 A、2 B を構成するケース状収納体 7 A、7 B 乃至上下の取付け体 9 A、9 B は、前記連結柱 3 a、3 a の先端部がそれぞれ貫通する複数個の連結孔 3 b、3 b 並びにこれらのそれぞれ螺合するネジ 3 c、3 c が存在する。

【 0 0 2 0 】

本発明では、室内側の上下の面付け錠ユニット 2 A、2 B の内、一方の、例えば上方に位置する面付け錠ユニット 2 A の主要部について説明するが、下方に位置する面付け錠ユニット 2 B も、その技術的思想は同一である。したがって、ここでは面付け錠ユニット 2 B の主要部について説明は、上方に位置する面付け錠ユニット 2 A の主要部についての説明をそのまま援用する。

【 0 0 2 1 】

ところで、室外側の上下の面付け錠ユニット 6 A、6 B の構成は、上方に位置する面付け錠ユニット 2 A の主要部と同一又は異なるものであっても良い。本発明は、少なくとも室内側の面付け錠ユニット 2 A、2 B の構成を権利範囲として請求するものである。

【 0 0 2 2 】

そこで、室内側の上下に位置する面付け錠ユニット 2 A、2 B は、少なくとも、扉 1 の内壁面 1 a に第 1 固定手段 1 7 を介して面付け状態に固定される上下のケース状収納体 7 A、7 B と、上方のケース状収納体 7 A に第 2 固定手段を介して固定的に収納される上方のラッチ錠 8 A 並びに下方のケース状収納体に第 2 固定手段を介して面付け状態に固定される下方の本施錠（カマデッド）8 B と、前記ケース状収納体 7 A、7 B の外壁面 7 b にそれぞれ設けられ、かつ突片部分を有する上下の取付け体 9 A、9 B と、縦長の内部空間 1 5 を有すると共に、該取付け体及び前記ケース状収納体を全体的にカバーした状態で該取付け体に第 3 固定手段を介して固定される上下のカバー台座 1 0 A、1 0 B を備え、前記上下のカバー台座 1 0 A、1 0 B には、図 1 及び図 3 で示すように、垂直状態に可動式の内外の長尺状ハンドル 4、5 をそれぞれ配設することができる。

【 0 0 2 3 】

ここで、図 2 を参照にして、内側の長尺状ハンドル 4 の取付け態様の一例を簡単に説明する。図 2 に於いて、a、a は左右の戸枠で、この左右の戸枠 a、a の間に扉 1 が水平方向に開閉可能に設けられている。そして、1 c は扉 1 の吊元側で、一方、1 d は戸先側である。室内側に位置するように扉 1 の内壁面 1 a の戸先側 1 d に設置された上下の面付け錠ユニット 2 A、2 B は、それぞれデッドボルト、駆動カム等を備え、内側の機械的操作手段（摘みを備えたサムターン装置）1 3、1 3 により、本実施例ではカマデッド 1 1 が出没する。

【 0 0 2 4 】

また、本実施例では、面付け錠ユニット 2 A、2 B のいずれか一方、例えば上方の面付け錠ユニット 2 A はカマデッド 1 1 の他に、内側のプッシュプル式長尺状ハンドル 4 の操作力に基づいて後退動する反転ラッチ、ラッチボルト等のラッチ本体 1 2 を備えている。内側の長尺状ハンドル 4 は、面付け錠ユニット 2 A、2 B に、その基端部が適宜に軸支された枢支部 4 a と、該枢支部から吊元 1 c に向いてやや弧状に延出する腕部 4 b と、この腕部の先端部に縦方向に固定された棒状の操作部 4 c とから成り、前記枢支部 4 a には、面付け錠ユニット 2 A、2 B に入り込む図示しない駆動片が取り付けられている。

【 0 0 2 5 】

（ 2 ）面付け錠ユニット 2 A の具体的構成

図 6 は、主要部を示す斜視図で、この図では、カバー台座 1 0 A でもって、取付け体 9 A 及びケース状収納体 7 A を全体的にカバーした状態を示す。また、図 7 は前記主要部を構成する各部材の分解斜視図である。

【 0 0 2 6 】

前述したように、本発明は、少なくとも室内側の面付け錠ユニットの構成を権利範囲として請求するものであるから、ここでは、図 6 乃至図 1 1 を参照にして、上方の面付け錠ユニット 2 A の構成を具体的に説明する。

【 0 0 2 7 】

本実施形態の面付け錠ユニット 2 A は、扉 1 の内壁面 1 a に固定されると共に縦長の内部空間 1 5 を有するケース状収納体 7 A と、このケース状収納体 7 A に内装されるラッチ錠 8 A と前記ケース状収納体 7 A の外壁面 7 b にそれぞれ設けられかつ複数の突片部分を有する取付け体 9 A と、前記ケース状収納体 7 A と同様に縦長内部空間を有し該取付け体 9 A 及び前記ケース状収納体 7 A に対して被せるように外嵌合するカバー台座 1 0 A を備え、該面付け錠ユニット 2 A の真下に所定間隔離間して位置しかつ前記扉 1 の内壁面 1 a に固定される下方の面付け錠ユニット 2 B も該面付け錠ユニット 2 A と同一の構成部材から成る場合には、上方の面付け錠ユニット 2 A のカバー台座 1 0 A と下方の面付け錠ユニット 2 B のカバー台座 1 0 B には、室内側の長尺状ハンドル 4 が縦方向に配設される。

10

【 0 0 2 8 】

そこで、例えば図 7 を参照にすると、7 A はケース状収納体で、このケース状収納体 7 A の縦長の内部空間 1 5 は、扉 1 の木口に嵌め込まれる、いわゆる「掘り込み型錠前（例えばラッチ錠、本施錠付きラッチ錠、本施錠等）」を、木口に嵌め込む場合と同様に、扉 1 の内壁面 1 a に扉の木口に相当する環境作りをし、従来の掘り込み型に使用されているラッチ錠、本施錠付きラッチ錠、本施錠等の錠前を、そのまま面付け状態に簡単に取り付けることができる大きさに設定されている。

20

【 0 0 2 9 】

実施形態では、少なくとも木口に相当する嵌め込み口 1 6 が前記縦長の内部空間 1 5 に連通して設けられている。ケース状収納体 7 A に上壁や下壁を設けるか否かは単なる設計事項であるが、ケース状収納体 7 A は、少なくとも断面コ字形状の周壁を有する。

【 0 0 3 0 】

しかして、ケース状収納体 7 A は、扉 1 の内壁面 1 a に固定される内側の取付けベース板部分 7 a を有する断面コ字形状に形成され、該ケース状収納体 7 A の前方開口端面に前述した木口相当の嵌め込み口 1 6 が形成されている。そして、取付けベース板部分 7 a 及び該取付けベース板部分 7 a と対向する手前側の外壁面 7 b には、必要に応じて、例えば第 1 固定具 1 7 用の内外の複数の第 1 取付け孔 1 8 a、1 8 b が形成され、前記手前側の外壁面 7 b に形成された第 1 取付け孔 1 8 b は、取付けベース板部分 7 a に形成された第 1 取付け孔 1 8 a よりも比較的大きく形成されている。

30

【 0 0 3 1 】

その理由は、手前側の外壁面 7 b の第 1 取付け孔 1 8 b を介して第 1 固定具 1 7（例えばねじ）を入れ、縦長の内部空間 1 5 内で第 1 固定具 1 7 をドライバー等で適宜に回してケース状収納体 7 A を内壁面 1 a に固定するからである。また前記取付けベース板部分 7 a 及び外壁面 7 b には、前述した連結柱 3 a（図 3 参照）が貫通する複数の貫通孔 1 9、1 9 が形成されている。さらに、不番の機械的操作装置用の孔、長尺状ハンドル 4 の駆動片用開口 2 6 等が適宜に形成されている。加えて、ケース状収納体 7 A の嵌め込み口 1 6 の上下には、例えばラッチ錠 8 A のフロントの上下端部が面接触する取付け突片 2 0、2 0 が設けられている。

40

【 0 0 3 2 】

次に、8 A はケース状収納体 7 A に内装されるラッチ錠である。このラッチ錠 8 A は、周知のラッチ錠と同様に、フロント 2 1 を有する錠ケース 2 2 の内部に、カムデッド 1 1 を作動させるためのデッド出没機構及びラッチ本体 1 2 を後退動させるためのラッチ機構が組み込まれている。

【 0 0 3 3 】

しかして、錠前の一例としてのラッチ錠 8 A は、ケース状収納体 7 A と同様に、機械的操作装置用の孔、長尺状ハンドル 4 の駆動片用開口 2 4 等が適宜に形成されている。そし

50

て、ラッチ錠 8 A は、ケース状収納体 7 A に嵌め込み口 1 6 を介して完全（全体的）に収納されると、フロント 2 1 の貫通孔を貫通して取付け突片 2 0、2 0 に螺合する第 2 固定手段 2 5 を介して該ケース状収納体 7 A に固定的に内装される。

【 0 0 3 4 】

なお、ラッチ錠 8 A がケース状収納体 7 A に完全に収納されると、ラッチ錠 8 A の駆動片用開口 2 4 とケース状収納体 7 A の駆動片用開口 2 6 等は符合する。

【 0 0 3 5 】

次に、9 A は取付け体で、この取付け体 9 A は、ケース状収納体 7 A の外壁面 7 b に添設状態設けられ、かつ複数の突片部分を有する取付け体である。本実施形態では、断面コ字形状に形成され、前記外壁面 7 b に面接触状態で添設される垂直板部分 9 a と、この垂直板部分 9 a の端板部分に相当する上下或いは左右一対の突片部分 9 b、9 b とから成る。

10

【 0 0 3 6 】

しかして、前記垂直板部分 9 a には、前述したように、連結手段を構成する複数の連結孔 3 b、3 b が形成されていると共に、前述した駆動片用開口 2 6 と符合する駆動片用開口 2 7 が形成されている。また、機械的操作装置用の孔 2 8 も形成されている。

【 0 0 3 7 】

一方、前記左右の突片部分 9 b、9 b には、第 3 固定具 2 9 用の取付け孔 3 0、3 0 がそれぞれ形成されている。ところで、この取付け体 9 A の垂直板部分 9 a の前記連結孔 3 b、3 b には、室外側の上の面付け錠ユニット 6 A の連結柱 3 a、3 a がそれぞれ貫通するので、ネジ 3 c によって取付け体 9 A がケース状収納体 7 A 側に引寄せられると、ケース状収納体 7 A は扉 1 の内壁面 1 a と取付け体 9 A の垂直板部分 9 a とによってサンドイッチ状態に挟持される（図 1 0 参照）。

20

【 0 0 3 8 】

したがって、ケース状収納体 7 A は第 1 固定具 1 7 と連結手段 3 の両方によってしっかりと弛まないように固定される。また、このケース状収納体 7 A は、カバー台座 1 0 A の内部空間の一部に入り込んで、該カバー台座 1 0 A を安定した状態に支持する機能を有する。

【 0 0 3 9 】

最後に、1 0 A はケース状収納体 7 A の縦長の内部空間 1 5 よりも大きい縦長内部空間 3 1 を有し、前述した取付け体 9 A 及びケース状収納体 7 A を全体的にカバーした状態で該取付け体 9 A の左右の突片部分 9 b、9 b に第 3 固定手段 3 0 を介して固定されるカバー台座である。

30

【 0 0 4 0 】

カバー台座 1 0 A の意匠的な外観形態は適宜に設計変更し得る事項であるが、本実施例では、少なくとも、取付け体 9 A 及びケース状収納体 7 A に被せることができる大きさに形成されている。

【 0 0 4 1 】

そして、実施形態では、一側壁 1 0 a に縦方向の切欠部分 3 2 を有し、ラッチ錠 8 A の錠ケース 2 2 のフロント 2 1 は、前記一側壁と略面一状態になるように前記切欠部分 3 2 に位置している。また、前記一側壁 1 0 a と、該一側壁に対向する他方の側壁 1 0 b には、上下方向に所定間隔を有して複数の取付け孔 3 3、3 3 が形成されていると共に、前記他方の側壁 1 0 b と直交する手前の前壁 1 0 c には、内側ハンドル 4 の基端部を挿入する開口 3 4 及び機械的操作装置用の孔（サムターン摘みの軸孔）3 5 が適宜に形成されている。

40

【 0 0 4 2 】

（ 4 ）機械的操作装置、

機械的操作装置 1 3 は、例えばサムターン摘みを有するサムターン装置で、上下のサムターン装置 1 3 は、室内側の上下に位置する面付け錠ユニット 2 A、2 B にそれぞれ適宜に組み込まれている。なお、室外側の上下に位置する面付け錠ユニット 6 A、6 B には、

50

上下の機械的操作装置（シリンダ錠）４０、４０がそれぞれ適宜に組み込まれている。したがって、本発明は、いわゆるツインロックにも使用することができる。

【００４３】

（５）その他の構成 - 錠受け

図５を参照にすると、戸先側の戸枠ａには、二つの錠受け４１Ａ、４１Ｂが上下方向に所要間隔を有してそれぞれ固定されている。例えば図４で示すように、上下の金属製錠受け４１Ａ、４１Ｂは、扉枠ａの外面に突出するようにそれぞれ固定されている。これら上下の金属製錠受け４１Ａ、４１Ｂは、一体成形されていても良いが、本実施形態では、上下方向に所定間隔を有して扉枠ａに配設され、例えば上方の金属製錠受け４１Ａは、本施錠片用の係合穴４２ａの他に、ラッチ本体用の係合穴４２ｂを有している。扉側のラッチ本体１２は１つで十分であることから、例えば下方の金属製錠受け４１Ｂは、本施錠片１１用の係合穴４２ａのみ有している。

10

【実施形態】

【００４４】

図１２及び図１３は本発明の第２実施形態を示す各説明図である。この第２実施例は、カバー台座（１０Ａ、１０Ｂ）の一側壁１０ａに本施錠片（カマデッド）１１の開口３２Ａ及び／又はラッチ本体１２用の開口３２Ｂを形成し、該カバー台座（１０Ａ、１０Ｂ）でもって錠前（例えばラッチ錠）８Ａのフロント２１も含む、該錠前８Ａを「すっぽりと」包むような点が、前記第１実施形態と相違する。このように構成しても、本発明の本質的事項に変更はない。もちろん、第２実施形態の場合には、フロント２１を有しない錠前８Ａを「すっぽりと」包むようにしても良い。なお、取付け体そのものを取付け体の外壁面に突出成形しても良い。

20

【００４５】

ところで、本発明の実施形態では、例えば図７で示すように、取付け体９Ａの左右の端部には左右一対の突片部分９ｂ、９ｂが対向状態に設けられているが、この要部（突片部分９ｂ）は、固定手段２９が固着具であるか、或いは図示しないオス・メス係合片であるか、或いは両方を併用するか等の観点から当業者が任意に設計変更することができる。図１４は念のためにその変形例（例えば突片部分９ｂ、９ｂが厳格な意味での左右一対でなくても良い）を示す斜視図である。図１４で示すように、固定手段２９の設計変更は、当該技術分野に於いて、当業者に自明乃至周知事項である限り、本発明の本質的事項ではない。

30

【産業上の利用可能性】

【００４６】

本発明は、錠前や建具の分野で利用される。

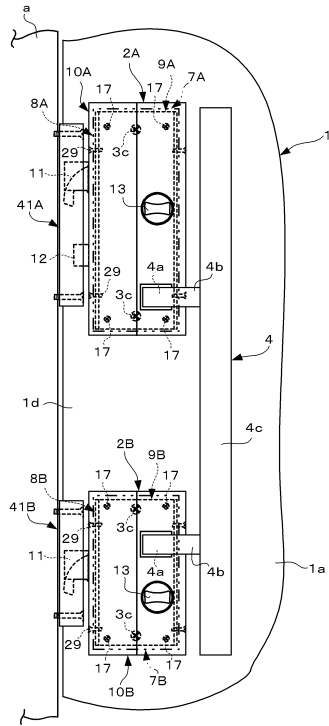
【符号の説明】

【００４７】

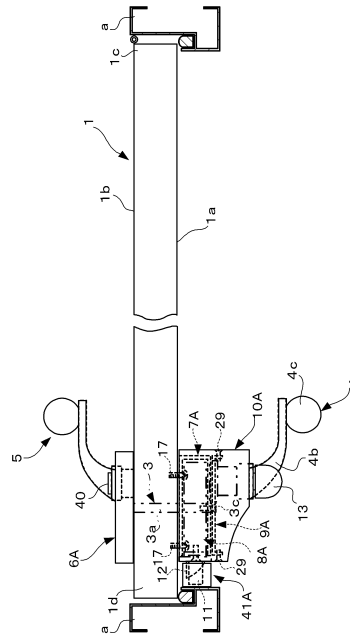
ａ…戸枠（扉枠）、１…扉、１ａ…内壁面、２Ａ、２Ｂ…室内側の上下の面付け錠ユニット、３…連結手段、３ａ…連結柱、３ｂ…連結孔、３ｃ…ネジ、４…内側ハンドル、５…外側ハンドル、６Ａ、６Ｂ…室外側の上下の面付け錠ユニット、７Ａ、７Ｂ…上下のケース状収納体、７ａ…取付けベース板部分、７ｂ…外壁面、８Ａ…錠前（例えばラッチ錠）、９Ａ、９Ｂ…上下の取付け体、１０Ａ、１０Ｂ…上下のカバー台座、１１…本施錠片（カマデッド）、１２…ラッチ本体、１５…縦長の内部空間、１６…嵌め込み口、１７…第１固定手段、１８ａ、１８ｂ…第１取付け孔、１９…貫通孔、２０…取付け突片、２１…フロント、２２…錠ケース、２４、２６、２７…駆動片用開口、２５…第２固定手段、２９…第３固定手段、３１…カバー台座の縦長内部空間。

40

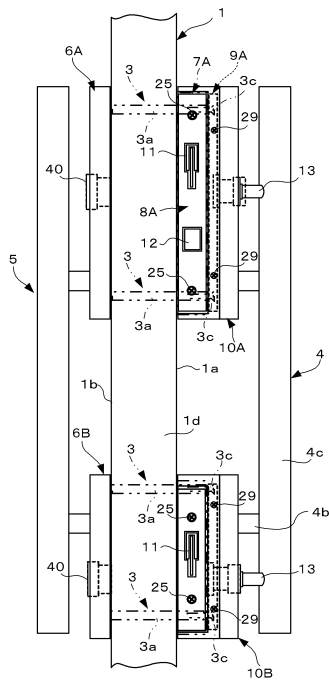
【図 1】



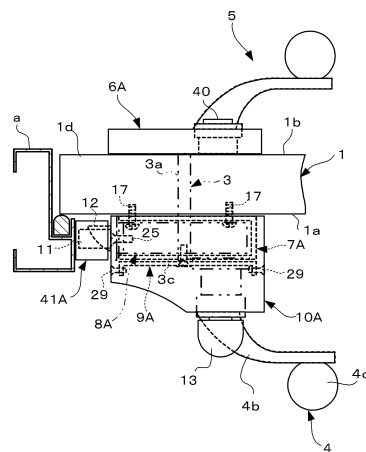
【図 2】



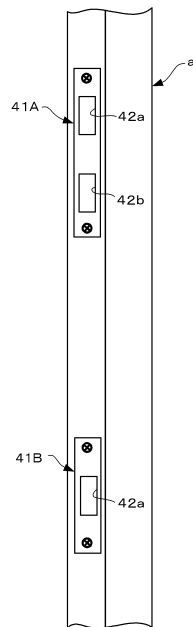
【図 3】



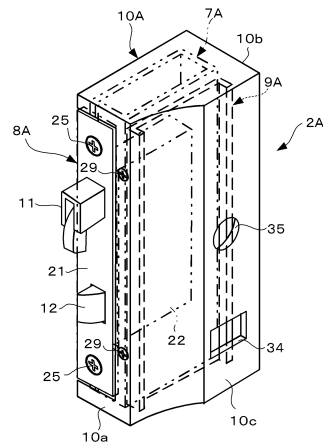
【図 4】



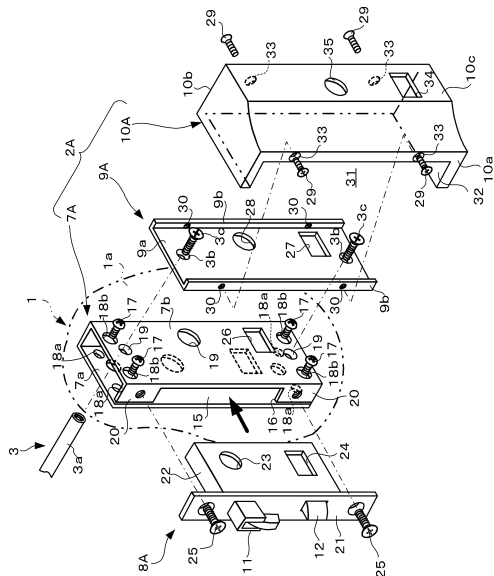
【図 5】



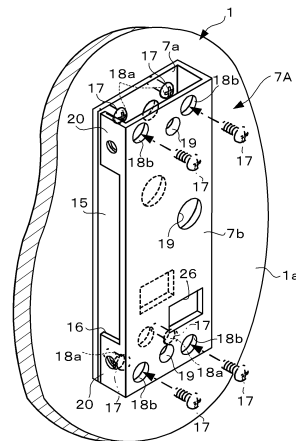
【図 6】



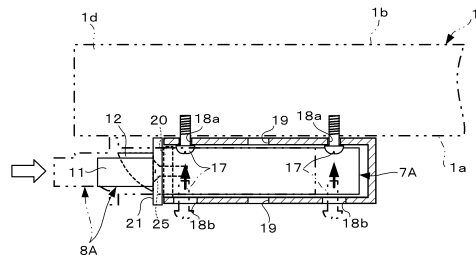
【図 7】



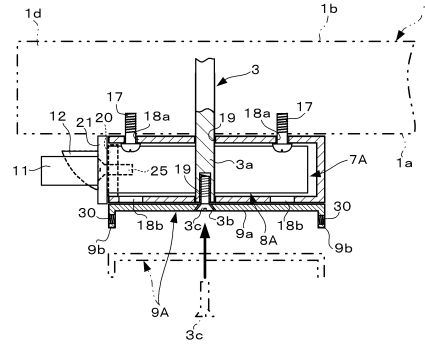
【図 8】



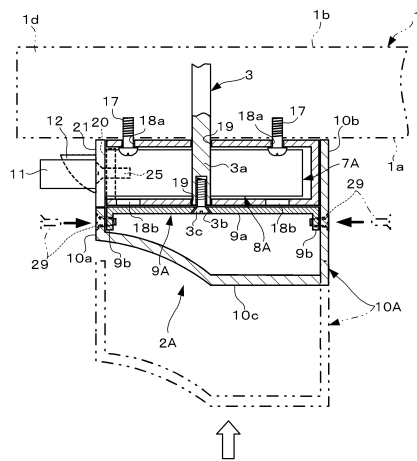
【図 9】



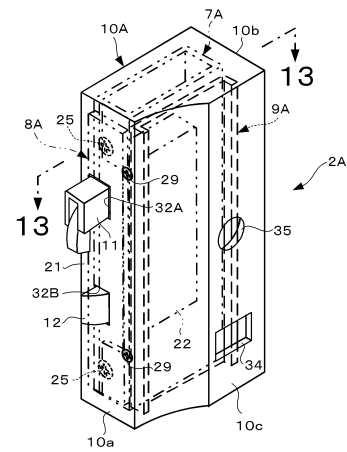
【図 10】



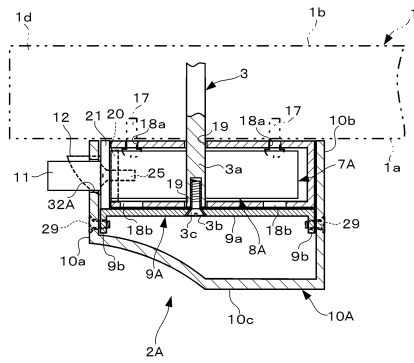
【図 11】



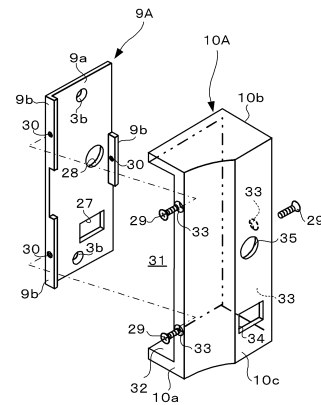
【図 12】



【図 13】



【図 14】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2010-159613(JP,A)
特許第4407883(JP,B2)
特開2008-150864(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
E05B 1/00-85/28